

## 第51回 三重泌尿器科医会抄録

### The 51st Mie Urological Meeting, Abstracts

日 時：平成24年1月22日（日）

場 所：三重大学医学部 臨床講義棟 第2講義室

#### 1. 2011年入院・手術統計 市立伊勢総合病院

市立伊勢総合病院 泌尿器科  
今村哲也，堀内英輔

##### ①入院総数 309名（男：女＝258名：51名）

入院の内訳は悪性腫瘍（腎癌 腎盂尿管癌 膀胱癌 前立腺癌）65例，尿路結石 111例，前立腺肥大症 3例，尿路感染症 18例が主な疾患であり，稀な疾患として膀胱破裂（交通外傷による）が1例であった．また前立腺生検による入院は70例であった．

##### ②手術総数 184例

TUR-Bt 17例，TUL 10例，経尿道的膀胱結石破碎術 9例，陰嚢水腫根治術 3例，TUR-P 2例が主な手術であった．なおESWLは88例であった．稀な手術としては膀胱破裂の膀胱腹膜修復術が1例あった．またIMRT症例は14例であった．

#### 2. 山田赤十字病院における2011年の手術統計

伊勢赤十字病院 泌尿器科  
保科 彰，大西毅尚，佐々木豪  
うめだクリニック  
梅田佳樹

男性501例，女性62例の計563例の入院患者に対して，延べ356件の手術を施行した．年齢は1～91歳，平均65.4歳，男女比は6.3：1であった．膀胱癌に対して膀胱全摘出術を5例に施行して，尿路変更は回腸新膀胱が2例と尿管皮膚ろうが3例であった．その他，TUR-Btを112例に施行した．腎摘出術は18例で，うち9例で鏡視

下手術を，また，腎尿管全摘出術は8例に施行し，うち6例で鏡視下手術を施行した．前立腺癌に対する前立腺全摘出術は21例，前立腺肥大症に対しては43例にTUR-Pを施行して2例に偶発癌を認めた．結石に対してはESWLを尿管結石の26例に，TUULを1例，内視鏡的膀胱結石碎石術を3例に施行した．麻酔は全身麻酔が69例，腰椎・硬膜外麻酔が203例，局所麻酔が55例であった．ESWLは無麻酔で施行した．

#### 3. 済生会松阪総合病院の2011年入院・手術統計

済生会松阪総合病院 泌尿器科  
小川和彦，金原弘幸，柳川 眞  
三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科  
西井正彦

2011年の入院総患者数は599人（男性512人，女性87人）で前年より減少し，平均年齢67.14歳，平均在院日数8.0日で，疾患別では悪性疾患290人（48.4%），結石179人（29.9%），その他52人（8.7%）の順であった．同じく2011年の総手術件数は339件（ESWL145件，ESWL以外194件）で，平均年齢67.1歳（3歳～88歳）であった．ESWL以外の手術の部位別件数を見ると膀胱64件，前立腺34件，腎尿管28件の順で多く，バスキュラーアクセス関連の手術とTUR-Btが例年より減少し，ESWLは総数も初回治療数も増加していた．骨盤内臓器脱に対するTVM手術が増え始めている傾向にあるのが特徴的であった．検査処置では，前立腺針生検の件数が例年より増加していた．発表ではこれらの内容を供覧する．

#### 4. 2011 年三重中央医療センター手術統計

三重中央医療センター 泌尿器科  
芝原拓児, 加藤雅史

三重中央医療センターにおける 2011 年の手術統計を報告する。総手術件数は 104 件であり昨年より約 20 件の減少であり約 74%が悪性腫瘍に対する手術であった。性別は男性 85 例, 女性 19 例で平均年齢は 70.0 歳 (4-89 歳) であった。麻酔は全例麻酔科に依頼し全身麻酔 61 例, 硬膜外・脊椎麻酔 42 例で局所麻酔が 1 例であった。腎腫瘍に対する手術は 6 例, 腎盂尿管腫瘍に対する手術は 6 例でありすべて体腔鏡下手術がおこなわれた。膀胱癌に対しては TUR-Bt が 48 例, 膀胱全摘が 2 例 (すべて尿管皮膚瘻) であった。TUR-P は 8 例と減少し, 前立腺全摘除術は 11 例であった。副腎腫瘍に対してはすべて腹腔鏡下手術で原発性アルドステロン症が 3 例, 転移性副腎癌が 1 例であった。

体腔鏡下手術は毎年 15 例前後であり計 68 例となった。

#### 5. 2011 年入院手術統計

武内病院 泌尿器科

栗本勝弘, 文野美希, 木下修隆, 加藤廣海

2011 年入院手術患者の統計を報告した。総入院患者数 1056 名, 結石患者 534 名, 結石以外 522 名であった。平均年齢  $64.5 \pm 14.5$  歳, 平均入院日数は  $5.6 \pm 11.3$  日であった。結石以外の中では悪性腫瘍 25%, 炎症性疾患 13%, 良性腫瘍 3%, 奇形 1%, その他 58%の順であった。手術統計では総数 872 件, うち ESWL が新規結石破碎症例数 327 例, 総件数 561 件でほぼ横ばいである。うち PNL 2 件, TUL 10 件 (f-TUL 3 件) を併用した。TUR-Bt が 59 例 (2nd TUR-Bt 3 例), 膀胱全摘術兼回腸導管造設術 1 例。前立腺: RP 11 例, HIFU 1 例 (TVP せず); TUR-P 8 例 (TVP 3 例 TURis-VP 5 例), 恥骨上式前立腺摘除術兼膀胱切石術 1 例。陰嚢・陰茎・尿道・精管; 高位除睪術 2 例, 去勢術 1 例, パイプカット

2 例, 陰嚢水腫 5 例, コンジローマ電灼術 8 例, 経尿道的尿道切開 10 例と多く HIFU 後の影響が考えられた。Blood access; 内シャント 63 例, グラフト造設 32 例。処置検査; 経直腸的生検 253 件で更に増加傾向であった。

#### 6. 2011 年三重大学医学部附属病院腎泌尿器外科における手術統計

三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科

神田英輝, 三木 学, 舛井 寛,  
西川晃平, 堀 靖英, 吉尾裕子,  
長谷川嘉弘, 山田泰司, 有馬公伸,  
杉村芳樹

2011 年の手術総件数は 351 件 (全身麻酔 148 件, 脊椎麻酔もしくは硬膜外麻酔 144 件, 局所麻酔 48 件) であった。手術別症例数は根治的腎摘出術 30 例 (開腹術 10 例, 腹腔鏡 14 例, ミニマム創手術 6 例), 腎部分切除術 15 例, 腎尿管摘出術 13 例, 副腎摘出術 8 例 (開腹術 1 例, 腹腔鏡 7 例), 生体腎移植術 6 例, 経尿道的膀胱腫瘍切除術 99 例, 膀胱全摘出術 14 例 (尿管皮膚瘻 3 例, 回腸導管 7 例, 新膀胱造設 4 例), 前立腺全摘出術 16 例, 前立腺小線源治療 2 例, 前立腺レーザー焼却術 8 例, 前立腺飽和生検 20 例, 精巣固定術 9 例, VUR 根治術 3 例, TESE 7 例, TVM-A 1 例, 内シャント 34 例であった。例年に比較すると腎部分切除術, 腎尿管摘出術および膀胱全摘出術の増加が認められた。

#### 7. 2011 年の手術統計

鈴鹿中央総合病院 泌尿器科

荒木富雄, 鈴木竜一, 荒瀬栄樹,  
長谷川万里子

三重大学医学部附属病院

加藤 学, 岩本陽一

鈴鹿中央総合病院における 2011 年の ESWL を除く総手術件数は 307 件で, 昨年より 16 件増加した。全身麻酔, 腰麻下の手術件数は 65 件, 163

件とともに増加した。また、局所麻酔下の手術はシャントトラブル依頼も多く 71 件と増加した。悪性腫瘍手術は、前立腺全摘が 36 件と際立って多く、生検の陽性率に反映された。続いて、根治的腎摘 9 件、膀胱全摘 5 件、腎尿管摘出術 6 件と大よそ例年通りであった。TUR-Bt は second TUR も行っているが 88 件と増加した。一方、TUR-p は 28 件と減少した。ESWL 件数は 215 件と増加した。

## 8. 三重県立総合医療センター泌尿器科における手術統計 (2011)

三重県立総合医療センター 泌尿器科  
 栃木宏水, 金井優博, 松浦 浩  
 三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科  
 神田英輝  
 日下病院  
 亀田晃司

2011 年の手術統計を行ない昨年までの統計と比較した。開院後 17 年 3 ヶ月の総計は 2,759 件であり、2011 年は延べ 130 件で 2010 年に比し微増した。部位別には膀胱 (42 %), 前立腺 (26 %), その他 (11 %), 腎 (11 %), 陰嚢内容 (7 %), 尿道 (2 %) の順であった。膀胱, 前立腺, 腎が増加し, その他, 尿道が減少した。

主要手術別には TUR-Bt (39), TUR-P (21), 前立腺全摘術 (13), 根治的腎摘出術 (5), PNS (4), 膀胱全摘出術 (4), 高位精巣摘除術 (3), 腎尿管全摘+カフ (2) の順であった。前立腺全摘出術, TUR-P は増加したが, TUR-Bt は減少している。

本年も内シャント関連手術は行われなかった。

## 9. 2011 年入院・手術・ESWL 統計

四日市社会保険病院 泌尿器科  
 田丸裕巳, 加藤貴裕

当院当科における 2011 年の入院患者数は 215 名 (3~93 歳, 平均 63.4 歳) であった。尿管結

石での入院が最も多く 63 例, 次いで前立腺生検目的が 36 例, 腎結石が 32 例であった。手術は 140 例であった。Double J カテーテルが最も多く 94 例, 内シャント造設術が 13 例, 結石関係では経尿道的膀胱結石除去術が 11 例, TUL が 11 例, PNL が 2 例であった。ESWL は新患数 385 例 (総破碎数 717 回) であった。9 月の新患数が最も多く 44 例であり, 次いで 8 月の 39 例, 10 月の 37 例であった。サイズ別では 5~10mm が最も多く 285 例, 部位別では U1 が 167 例と最も多く, 次いで U3 が 88 例であった。平均破碎回数は 1.86 回であった。

## 10. 名古屋セントラル病院泌尿器科の 2011 年手術統計

名古屋セントラル病院 泌尿器科  
 黒松 功, 古澤 淳, 平林 淳

名古屋セントラル病院における 2011 年の手術統計を M-CURE の統計分類に従って集計した。体外衝撃波結石破碎術 76 例を含めた手術総数は 308 例であった。M-CURE 分類に属さない手術を含めると 343 例であった。前立腺全摘術は 21 例と 3 年間でほぼ同数であった。膀胱癌に対する膀胱全摘を 3 例に行い, 尿路変更は尿管皮膚ろう, 回腸導管, 回腸新膀胱がそれぞれ 1 例であった。2011 年より LBO レーザーを用いた PVP を保険診療として開始し, 60 例に施行しこれまでの PVP 同様に合併症なく施行可能であった。また前立腺癌に対する IMRT の前処置としてのマーカー留置が VISICOIL を用いて保険診療可能となった。結石治療に関しては体外衝撃波破碎術が減少し, fTUL が増加しており今後もこの傾向が続くと思われた。

## 11. 2011 年入院手術統計

愛知県がんセンター中央病院 泌尿器科  
 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男

2011 年の新患と再来を合わせた外来患者数は

9,831 名と前年に比し 7.7%増であった。入院患者数は、387 名と前年と同等であった。年間手術件数は、197 件と前年に比し 5.3%増であった。腎・腎盂尿管・副腎の手術では、根治的腎摘除術が 12 件、腎部分切除術が 4 件、腎尿管摘除術が 2 件、尿管鏡検査が 2 件であった。膀胱の手術では、膀胱全摘除術が 5 件（回腸導管が 3 件、尿管皮膚瘻が 2 件）、TUR-Bt が 45 件、膀胱ランダム生検が 1 件であった。前立腺の手術では、前立腺全摘除術が 42 件、Brachytherapy が 24 件であった。精巣の手術では、RPLND と除睾術が各 1 件であった。その他の手術では、前立腺 Saturation biopsy が 16 件、腰麻下での DJ カテーテル交換が 7 件、尿管膀胱新吻合術が 1 件であった。

## 12. 慢性前立腺炎の臨床的検討

たじま泌尿器科皮フ科  
田島和洋

2010 年 6 月から 2011 年 9 月までの 1 年 3 ヶ月に経験した慢性前立腺炎 225 例について治療に要した抗生剤使用期間と前立腺液（精液、前立腺マッサージ分泌液、VB3）の白血球数との関係を検討した。抗生剤使用期間は前立腺液に白血球を認めない非炎症性 28 例では平均 1.5 週、前立腺液の検査をしなかった 90 例は 1.7 週、初診時検査せず抗生剤使用后 2 回目の受診時白血球を認めなかった 36 例は 2.3 週、炎症性前立腺炎 71 例では 2.8 週だった。不妊症の原因が慢性前立腺炎であった症例と、他医で 8 ヶ月治療しても改善しなかった炎症性前立腺炎の前立腺液白血球が陰性化したあとも強い陰茎痛が改善しない例に、パキシルを投与し症状が消失した例を示し、精液検査が慢性前立腺炎の診断と治療のために有用であり、無用な抗生剤の使用を減らすことができることを報告した。

## 13. 後期高齢者に対する光選択式レーザー前立腺蒸散術（HPS）の治療経験

三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科  
堀 靖英, 三木 学, 舛井 覚,  
西川晃平, 吉尾裕子, 長谷川嘉弘,  
神田英輝, 山田泰司, 有馬公伸,  
杉村芳樹

【緒言】前立腺肥大症に対して 2011 年より、光選択式前立腺レーザー蒸散術（PVP）の保険診療が可能となった。PVP の初期経験を報告する。

【対象と方法】2011 年 9 月～10 月に PVP を施行した 75 歳以上の後期高齢者 5 例につき、PVP の安全性と短期効果を評価した。

【結果】5 例の年齢、前立腺体積、手術時間、術前・術後の血清ヘモグロビン濃度の変化、術後カテーテル留置期間の平均は、80 歳、52.2 ml, 131 分間、 $-0.8 \text{ g/dl}$ , 2.2 日間であった。術前→術後 2 週間→術後 1 ヶ月で、国際前立腺症状スコアは  $26 \rightarrow 10 \rightarrow 5$ , QOL スコアは  $6 \rightarrow 2 \rightarrow 2$ （いずれも中央値）と改善した。

【結語】前立腺肥大症に対する 120 W HPS は、高齢者の前立腺肥大症手術に対する安全で有効な低侵襲治療である。

## 14. 参加者動向から見た排泄管理

～ 四日市排泄を考える会を主催して感じたこと 今、何が求められ、何をしていくか～

こめだ腎・泌尿器科  
米田勝紀

2003 年「おいしく食べて気持ちよく出す」ことを理念に、排泄を考える会を主催し昨年末に 45 回目を迎えた。講演内容からテーマ別に参加者人数を比べその過多により何が求められているか検討した。参加者の職種は医師、看護師、介護士、医療関係者、その他に分類したが、出席者比率はほとんど変化なかった。参加者が多かったのは、認知症の排泄ケアに関するもので現場対応の困難さを感じさせた。少なかったものはグループワークなどの参加型検討会で、普段から慣れてい

ないのか毎回少なかった。地域排泄ケアは各地で実践されているが現実はどの程度効果が上がっているのかあまり聞こえてこない。地域の排泄ケアを考える会として存在がさらに評価されるよう継続、努力していきたい。

## 15. ミニマム創無阻血腎部分切除術

名古屋セントラル病院 泌尿器科

平林 淳，古澤 淳，黒松 功

【目的】当院において、①低侵襲②腎機能温存③確実な腎腫瘍の切除のために、ソフト凝固を用いたミニマム創での無阻血腎部分切除を施行したので、報告する。

【対象と方法】T1a 腎腫瘍 3 例。6–8 cm のミニマム創で、無阻血のまま、ソフト凝固で切除面を止血し施行した。

【結果】平均手術時間 187 分，平均腫瘍切除時間 31 分，平均出血量 27 cc であった。翌日より食事，歩行を開始，平均術後入院期間は 4.3 日であった。術後病理は，いずれも淡明細胞癌 G1，pT1a，断端陰性であった。

【考察】阻血時間を気にせず，ソフト凝固にて切除面の止血を施行することで，確実な止血，腫瘍切除が可能であった。本方法は，腎腫瘍に対する部分切除の方法として有用であると思われた。